

わ先主

容

私のほいゆうの仕事は美容師<sup>増</sup>だった。美容

を教わって職<sup>に</sup>就職する<sup>に</sup>はどうか

ったく不明でボニヤリしていた。そのころ<sup>美容師の資格で</sup>就職

職する<sup>に</sup>は<sup>に</sup>位<sup>に</sup>で掃除<sup>を</sup>したく、子守、その他が在

事だ。それであり、うかつとめらわ<sup>る</sup>のか、それ

さるわから<sup>お</sup>由<sup>り</sup>松坂ヤの美容室にきこる。

松坂ヤの就職は<sup>約</sup>ハヤ人々<sup>り</sup>い甲七名だ。甲五

くしてく<sup>れ</sup>にヤさん<sup>が</sup>松坂ヤの面接の所<sup>で</sup>市橋

と一緒<sup>に</sup>入店し<sup>て</sup>言<sup>っ</sup>てく<sup>わ</sup>れた<sup>の</sup>だ。

彼女は復讐者なんだ。こので、それを守るとい  
おまけで入店出来た。

五年程つとろ右あとも店をもつたが、オヌも

水蓮も守りぬ守りたうた

ヘアスタイルの勉強に通い、店にかえり、最近

ヘアスタイルを披露するが、お客様は多い

うな、バーマをゆりくか439がそもそも

まぢがい、ワタクかヤてく和やくいがおす存い

ようたするのが用い、困ってしまつた

そんな時、力をいたり、今、どきりたうお客様

と <sup>考が</sup> 致す

その勉強が口先の勉強会だった

月一の勉強会、化学記号ばかりの世界、私

のには手の世界、一年たつて少からな

もう一年とたつた時、突然君講師や多幸リか

の一言が講師の仕事のほいほいとた

そして全国的に講習をいよいよと、<sup>かり</sup> <sup>味</sup>

ユララゴくり講師の養成、<sup>講師</sup> <sup>習</sup>の仕方と

ド、と仕事が変わつて来た、<sup>身</sup> <sup>し</sup> <sup>ろ</sup> <sup>初</sup> <sup>め</sup> <sup>の</sup> <sup>忙</sup>

事ばかり、まさに職場が私を育て、くわ



長	対		し	ッ	ん	る	セ	じ	リ
あ	衣	そ	レ	と	か	ろ	下	ど	1
子	実	れ	メ	す	か	で	唐	2	ト
味	技	か	ニ	る	子	大	の	作	メ
口	を	か	ト	今	あ	変	お	つ	2
い	1	う	ク	皆	へ	任	湯	つ	ト
子	た	頭	リ	ま	3	事	を	く	リ
す	り	皮	1	ん			の	る	1
す	ア	'	ム	が			れ	こ	ト
と	ド	頭	ハ	つ			釋	と	口
ス	バ	毛	ハ	か			い	口	先
ラ	イ	肌	最	フ			か	を	が
リ	ス	な	初	ア			ま	が	日
と	を	ど	は	1			ま	本	本
1	す	の	ら	3			せ	で	は
た	る	ト	ア	ア			る	は	
た	ニ	ラ	ヤ	の			年		
え	と	ブ	マ	ト			が		
か	で	ル	1	リ			す		
見	し	に	た						

え左、朝し川の方を思い「口矢をけ下階でお茶を

やし「了い、もう」  
口先生新カミヤシは各駅に役せかいる

と「まもるくマキセイイトコ」の橋を赤黄青に

かやを染めややたたふか見える「どらうさるしや

か「窓内」  
「エ」の交まると一緒に伝んでい

るやとばかりがう。

それから交通整理のあすかり「さん」の役とす

る橋に存る

いの「の」向はかや先ととれくうい親「い」か

吾かわかす橋に存る  
おタイ  
うエ  
ゲ  
じの

わが

う

修得、  
の気玉をとり  
すく妙  
性  
は

の気玉をフジ山の峰に  
見えろろしく  
身こが

ぬ  
り  
る。

私は  
の気玉の  
料考  
の考  
之  
は  
かり  
で  
なく  
い

ろ  
の  
事  
を  
お  
し  
え  
る  
も  
ろ  
う  
た。